レッスン：SPA NO.48

テーマ：自己実現＆様々な助け

SPA48/KE8/02/7

私の姉妹・兄弟達

スピリット、光そして火の子供達よ。私達は主、絶対、主の聖性に抱かれています。

　前回のレッスンでは絶対存在、絶対ワンネスの多様性（複数性）のリアリティーについて話しました。その時述べたように、絶対存在は多様性というステートのなかで一つ、ワンなのです。

　この多様性の中でのモナド・セルフ・スピリットもまた全体、総体を示しています。なぜなら、最大のなかにあるものはまた最小のなかにもあるからです。勿論、このリアリティーについては過去に様々な仕方で何回も述べてきました。

　生の微細なスパークからのスピリット・モナド・セルフ、それが人間のイデアを通過して今や魂のセルフ・エピグノシスとして現れており、その特質を表現しています。私たちが一つの魂のセルフ・エピグノシスと「会う」時、それはあたかもあらゆるセルフ・エピグノシス(Self-Epignosis)と会うのと同じで、そこには違いはありません。モナド・セルフである魂のセルフ・エピグノシスはモナド・セルフ・エピグノシス全体を代表しています。同じ事は私たちの兄弟であるアークエンジェルについても言えます。アークエンジェルはイデアとしての聖霊(Holyspiritual)を通じての生の現れです。

今、一人のミカエルと会うとき、それは全てのミカエルと会うようなものであり、一人のミカエルと話す時、そのミカエルは実際ミカエルのオーダーを代表します。しかし、他の異なったオーダーのアークエンジェルを代表しているわけではありません。なぜなら、創造界においてそれぞれのアークエンジェルのオーダーはそれぞれ異なった仕事をしているからであり、かれらのセルフ・エピグノシスは神の黙想の結果としてプログラムされています。ですから、アークエンジェルはプログラムされたセルフ・エピグノシスですが、人間はプログラムされたセルフ・エピグノシスではありません。それゆえに、すべてのセルフ・エピグノシスは魂のセルフ・エピグノシスとしては同じなのです。

さらにまた、このことは或る程度、実存の諸世界における生の現れとしての人間、現在のパーソナリティーとしての人間についても言える、と説明してきました。多様性の特質はまたこの次元においても現れており、思考活動の結果としての創造、無数のエレメンタルがあることも説明しました。勿論、無知にある間は人間は欲望的想念のエレメンタルを創造しますが、各エレメンタルはそれがどのような形を帯びていようとも、建物、椅子、あるいはどんな形を帯びていようとも、そのエレメンタルの質はそれを創造した人、それを創造したパーソナリティーを現しています。

これもまた生の特質、生のこのような能力の結果です。しかし、自己実現したパーソナリティーの場合、創造されるエレメンタルは欲望的想念ではなくて想念的欲望のエレメンタルです。そしてこれらのエレメンタルはエンジェルとなり得、それらは全てそれらを創造した特定のパーソナリティーの存在のステートを完全に示しています。そして勿論、そのパーソナリティーはアガピの現れ、愛の現れ、無条件の愛の現れ以外の何ものでもありません。そしてそれらのエレメンタルはエンジェルであり、同胞の人間達に奉仕する無数のエンジェルなのです。しかし、それのみならず、自己実現した現在のパーソナリティーは肉体からサイコノエティカル体を切り離すことによって、エクソマトシスと呼ばれる現象を行うこともできます。実際、肉体によって現在のパーソナリティーは自らを物質界で現しています。なぜなら過去に何回も話したように、現在のパーソナリティーというのは実際、思考・行動の仕方だけであり、それが現在のパーソナリティーだからです。現在のパーソナリティーとは肉体ではありません。

ですから、現在のパーソナリティーは肉体から切り離されて、今やマインドのあらゆるバイブレーションのなかを自由に移動します。その唯一の目的は、物質界のバイブレーションのなかで、あるいはサイコノエティカル界のバイブレーションのなかで助けを必要としている全ての同胞の人間たちを助けるためです。さらに何回も述べたように、このパーソナリティーはまた同胞の人間たちを助けるために多くの同一体、サイコノエティカル体を必要な数だけ投射することができます。その数はどれほどでしょうか？必要な数だけ無数に。そして各サイコノエティカル体は全体を示しています。

Page2

数については述べません、今や、量というものはありません、質的にも量的にも全てのサイコノエティカル体は同じです。以前に、パーソナリティー、探究者は自分が立っている地点から理解し、唯一の違いは量であると考えるかもしれないと述べました。しかし、実際、「生」(Life)について話すときには、そのようなものは存在しません。確かに、物質について、生が現わされる手段について述べるときには量について述べることができますが、生について述べるときには違います。生それ自体(Life Itself)を制限することはできません。

ですから、現在のパーソナリティーから投射される全てのサイコノエティカル体は同じであり、それぞれが全体を意味します。そこには同じ神の黙想があります。「神の、聖なる」黙想です。なぜなら、彼らの黙想は今や神の黙想と完全に一致したものとなっているからです。しかし、人間が無知のなかにいる間は、無知のなかにいる人間には神の現れはありません。

過去に述べたように、黙想とは無知にいる人間のためのものではありません。無知にいる現在のパーソナリティーも考え、瞑想しますが、自己実現した現在のパーソナリティーは黙想し、自分自身を観察したものに同調させますが、しかしそれと一つにはなりません。なぜなら、それは同化のためだからです。

そして前に話したように、同化は自己実現した現在のパーソナリティーのものでもありません。同化は「生それ自体」のためのものです；同化は「魂のセルフ・エピグノシス」のためだけのものです。同化(assimilation)は 存在の世界のためだけのものであり、実在界のものではありません。存在の諸世界とは原型、イデア、原因の法則の諸世界であり、それらは四つのヘブンです。

転生のサイクルにいる間はいかなる人間もそれらの世界を訪れたことはありません。それらの世界は地球全体が自己実現した惑星になったとき初めて訪れることができます。そして自己実現した惑星というとき、それはこの地球という惑星上で人間が全体として自己実現に到達することを意味します。そして勿論、前に述べたように、そうなった時には地球全体には存在の世界に入る前に、やるべき別の仕事があります。地球上の人間は全体として他の銀河、他の太陽系のために不可視のヘルパーとして奉仕することになるでしょう。そしてその後、神の黙想が「決意」する時、その時初めて特定の惑星上の人間は今や「魂のセルフ・エピグノシス」として存在の世界に入ることでしょう。

それらの世界で起きることを私たちはどれほど知っているでしょうか？何も知りません。「魂」(Soul)が何を行い、何を行わないか、私たちは何もわかりません。そこには意味は存在せず、時間・空間の意味はありません。

同化と言う時、それは生の意味のなかで自分たちのワンネスを失うという意味ではありません。生はあらゆる所、あらゆるものの内側にあり、全ては生の海のなかで泳いでいます。多様性（複数性）であり、同時にワンネスである生のなかで。私たち一人一人は全て、複数性としてのワンネスを有しています；言い換えれば、私たちの内側には全体および反対のものがあります。このリアリティーを理解するのは非常に困難ですが、それが実際なのです。自己実現した現在のパーソナリティーですら宇宙を抱くことができるのです、それほど長い間ではありませんが。しかし、より大きく拡大することなしにそれが生じることが可能であり、肉体を通じて再びフォーカスしてもより小さく縮小することはありません。そして肉体にいる間でもそのような現在のパーソナリティーは意識を拡大して地球全体、さらには太陽系全体をも抱くことができます；このことを理解するのはとても難しいことですが、しかし「生」にとってはそれはとても簡単なことです。なぜなら、それは生の本質のなかのことであり、私たちが説明したように、探究者がすべき唯一のことは気づきを上げる上で助けになるワークをすることであり、それだけです。

それをどのように成し遂げるか？そのためのメソッドがあなた方には与えられており、知識を通じて導かれており、様々なエクササイズを通じてガイドされており、それらのワーク全ては実際、内側の自己省察、自己観察なのです。内側の自己省察というとき、それは何を意味するでしょうか？それはつまり、自分の内側にあるものを見ること、吟味するということです。

Page3

さて、内側というとき、それは何であれ潜在意識に貯蔵されているものを意味します。そして、そこに貯蔵されている内容の結果として、私たちはそれを思考・行動の仕方として現します。言い換えれば、それは気づきのレベルを示します。私たちはこの気づきのレベルを吟味する必要があります。気づきのレベルこそが現在のパーソナリティーなのです。なぜなら、現在のパーソナリティーとは変化できるものであり、それを徐々にゆっくりと導いていく必要があります。この現れを活性化するスパークからもっともっと（＊自らを）現すことができるようになるために。そのスパークなしでは現在のパーソナリティーとしての現れはなく、そのスパークとは生それ自体の純粋なスパークであり、それは全ての人の内側にあります。そしてそのスパークが無条件の愛を表現する能力、お互いを抱きしめる能力を与えているのです。現在のパーソナリティーとしてであれ、全ての人を結びつけるのはこのスパークであり、それゆえに私たちは兄弟・姉妹であると言えるのです。そうです、それは思考・行動の仕方である現在のパーソナリティーの現れの故にではなく、このスパークのゆえにです。そしてスパークは全ての人において同じです。

あなた方がそのスパークの本質としての特徴を表現するようになると、スパーク全体を表現していると言うことができ、それは現在のパーソナリティーをも活性化させます。ただ一つ、異なるものがあります。現在のパーソナリティーとしての個人を示すものを現すことはできません。その現在のパーソナリティー、個人を示すものは、その現在のパーソナリティー、その個人が時間・空間の意味のなかで経験してきた個別の体験です。言い換えれば、各個人のカラーです。

魂のセルフ・エピグノシス、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスについてはどうでしょうか？私たちはそれについては多くを知りません、わかっていることは、自己実現した魂は…自己実現した魂たち全てを現すことができなくても、つまり自己実現した個々の魂のカラー全てを表現することはできないが…自己実現した魂と自己実現した現在のパーソナリティーの間には違いがあるということです。自己実現した魂にはより多くの能力があります。なぜなら、その魂は生の特質をより多く表現しており、個々の魂のセルフ・エピグノシスの体験すら「体験」することができるのです。そして勿論、このような能力は自己実現したスピリットにおいてはさらに大きくなり、勿論、神の黙想も含まれます。このゆえにこそ、そしてただそれだけの故に、自己実現したスピリットはあらゆる体験のなかに入り、助ける能力があるのです。これが神の黙想の唯一の理由です；スピリット、自己実現したスピリットが、実存の世界において個々の人間が何であれ体験として経験するものを体験し、助けることができるようにです。

さて、過去に述べたそれらのロゴスについてはどうでしょうか？それらは様々な銀河、太陽系、惑星、天体を司っています。それらのロゴスは何だと思いますか？実際、それらはスパーク、自己実現しているスピリット・モナドからの微細なスパークであり、それらは天体を司っています。何故でしょうか？なぜなら、それらは特定の惑星上で人間が経ている体験を「知っている」からです。

前に述べたように、これまで何年もの間あなた方に提供した全てのシンボルには唯一の目的があります。それは実存の諸世界にいる人間、特に無知のなかにいる人間を助けることです。それ以降は役立ちません。なぜなら、「生」にはいかなる必要性、ニーズもないからです。前に述べたように「生」を制限、限界のなかに置くことはできません。そしてそれぞれのシンボルは実際進化のステート、意識の現れのレベルとしてのステートを意味しています。なぜなら、実存の諸世界における微細なスパークとしての意識は制限ある現れの中に入り、そこには様々なレベルがあるからです。

ですから、私たちが提供した様々なシンボルは実際、現れのステート、現れの制限のレベルを示すステートを意味しています。円のシンボル、三角形のシンボル、様々な星形のシンボル、様々なピラミッドのシンボルを提供しました。繰り返しますが、それらはシンボルであり、探究者は生それ自体の現れである制限ある現れから自らを解放するための助けとしてそれらを使います。

「生命の木」、それは創造のセルであり、それは最大のものから最小のものまで、創造のセルの原型ですが、それはこのバイブレーションにおける生のためのものです。私たちが一番目の磔に到達する時には、それらのシンボルは必要ありません。なぜなら、最初の磔の後、人間は自らを生それ自体として、魂のセルフ・エピグノシスとして現すからです。生それ自体として現すようになる時、私たちはもはやそれらのシンボルを全く必要としません。

Page4

勿論、マインドはこのシンボルを必要とします。そして私たちがマインドというとき、そのマインドとは全てであり、全てはマインドであり、マインドのなかには生それ自体があります。しかし、マインドが存在し、実在するためにはその中にこの形、フォームがなくてはなりません。そしてこのフォームとは生それ自体の活動の結果であり、多くのレッスンのなかで何回も述べたように、天上人（Heavenly Man）がこのフォームを与えています。言い換えれば、キリスト・ロゴスです。最初は汎宇宙的キリスト・ロゴスとして、のちにはイエス・キリストロゴスとして。人間はこのこのフォームの上に築かれていますが、人間だけではありません。物質の原子もまたこのフォームの上に築かれています。ですから、マインドはこのフォームを必要としていますが、しかし「生それ自体」はそれを必要としません。「生それ自体」の世界においては、このフォームは原型、イデアだけです。言い換えれば、そこにあるのは必要な時に使用される能力です。

ですから、道を見いだす助けとしてシンボルを使います。どの道でしょうか？帰還する道です。どこから帰還するのでしょうか？私たちがスタートした所からです。そしてこの道は一つだけであり、たくさんの道があるわけではありません。これは生命の木における中心の道です。道はどれでしょうか？「生それ自体」は道でしょうか？その道は生の海であり、私たちはこの道を行かねばなりません。もし私たちが生それ自体の道に入らなければ、自分たちが進みたいスピードで進むことはないでしょう。

勿論、体験を経ることによってゆっくりと進化・成長は生じるでしょう。しかし、できるだけ速く、同胞の人間たちを無条件の愛で抱きしめることができるようになりたければ；これが唯一の道なのです。私たちは下部のセンターを刺激してパワーと能力を得ることはしません。真摯なる真理の探究者たちはこのことをはっきりと理解する必要があります。

残念なことに、過去において私たちは皆、現象を起こすためにパワーと能力の諸センターを刺激して、創造エーテルを上昇させようとしました。しかし、それらのパワーと能力は実際には反対方向に役立つということを私たちは認識できなかったのです。なぜなら、以前のレッスンで述べたように、現在のパーソナリティーが無知にいる間は、私たちが上に向かうと考えるものは何であれ実際には下に向かうからです。地球の上に立って上を見ていると思っていますが、実際には下方にフォーカスし、地、土の方にフォーカスしているのです。フォーカスしている？実際には私たちはその中にいる、つまり土に囲まれているのです。

ですから、もし無知のなかにいる間に創造エーテルを上昇させようとすると、実際にはこのイメージ（実際それは本物のイメージ、影にすぎず、下方に反映しているのです）の諸センターを活性化させることになり、上昇させようとしても実際には木を下方に行くことになるのです。どんなエクササイズをするにしても、この生命の木にどのようにフォーカスするのであれ、その前にまず気づきのレベルを上げようとする必要があります。そしてもし気づきを上昇させようとするなら、生命の木にフォーカスする必要はまったくないのです。なぜなら、生がその特質を完全に現すようになるからです。この生命の木における唯一のワークは実際、現在のパーソナリティーの様々な側面にどのようにアプローチするかというガイダンスです。それによって、現在のパーソナリティーがそれらの様々な側面によってだまされるのを避けるためです。

勿論、その道に入る方法があり、それが探究者がエレメンタルに囲まれた（それら無数のエレメンタルは無知にある人間が創造したものですが）地中にある四面ピラミッドのなかの部屋で行うワークです。

いずれにしても、私たちは現在のパーソナリティーの部屋のなかでのワークを続けます。いいですか、前回のレッスンおよびこのレッスンで与えられた内容は非常に重要です。理解するのがとても難しいですが、しかし非常に重要です。何故でしょうか？現在のパーソナリティーは思考という聖なる贈り物を建設的に使い始める必要があります。もしあなたが座って適切に瞑想しなければ、あなたは何も得ることはないでしょう。私たちが与えるエクササイズはとても重要ですが、与えられる知識も非常に重要です。この知識のわずかな内容ですらとても重要です。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

質問：現在でもこの地球には人類に対するヘルパーがいると思いますが、それらのヘルパーは誰なのでしょうか？彼らは何処から来るのですか？それらの存在について話していただけますか？

Page5

答え：そうです、他の銀河、他の太陽系、他の惑星などからヘルパーが来ています。言い換えれば、不可視のヘルパーたちが助けを提供するために来ています。彼らはどのようにするのでしょうか？科学者たちがわかる唯一の事実は、いわゆる地球以外からのものである、ということです。

それらの実体はなんだと思いますか？技術を駆使して来ると考えますか？答えはノーです。彼らが地球にやって来るのは、ただ地球の人間に考え始めさせるためです。彼らは人間が知らないうちに助けを提供しています。彼らは不可視のヘルパーなのです。現象として彼らは移動するための何らかの手段を用いますが、彼らはそれらの手段を全く必要としません。彼らは思考の速度よりも遙かに速い速度で移動します。彼らは物質化、および非物質化のマスターたちです。

いいですか、この地球上にもそのような能力を持つ人々がいます。この地球上にも自分の諸体をマスターするレベルに到達した同胞の人間たちがいます。彼らは現在のパーソナリティーの自己実現に到達し、また不可視のヘルパーでもあるのですが、転生のサイクルのなかに留まり、人類の最後の一人が自己実現に到達するのを待っています。

確かに、他の惑星、他の銀河系からの訪問者、さらには私たちから無限と思われるほどの光年も離れた銀河系からの訪問者たちもいますが、距離は問題ではありません。彼らにとって必要なことはただ何かにフォーカスすることであり、すると直ちにそこにいます。ただフォーカスするだけです。

人間が乗り物を捕獲した、さらには地球外からの生命体を捕らえたという話を聞いたことがあるかもしれません；そのとおりだと思いますか？人間が捕らえたものは、人間に体験させるために彼らがそのように計画したのです。もし地球外の生命体のように見える場合、それは同一体、彼らが築いたエレメンタルなのです。そしてもし人間が彼らの移動する手段を捕獲したとしても、そこにはいかなる道具もありません。なぜなら道具など必要としないからです。テクノロジーは必要ないからです。勿論、地球上の人類全体の気づきが成長し、高まれば、それらの訪問者たちはもっとはっきりと姿を見せるようになるでしょう。

質問：あなたは私たちが他の人々を助けるべきだと言い、私たちも人々を助けたいと望んでいます。しかし、私は混乱しています。というのも、誰もがそれぞれ体験すべきことがあり、もし私がそこに介入してしまうと、彼らが体験する機会を奪ってしまうことになるからです。ですから私たちはどのようにして助けるべきでしょうか、ただ愛を向けるだけでいいのでしょうか…。

答え：相手のプライバシーに介入することはしません。あなたがすることはただ一つ相手を抱きしめることです。特にその人が苦しんでいる時には。あなたは相手の痛みを抱きしめ、同胞の人間の苦しみを軽減しようと試みます。しかし、相手のプライバシーに介入するのではありません。どんな場合であれ、原因・結果の法則に逆らうようなことはしません。相手が誰であれ、頼まれないのにプライバシーに足を踏み入れることは許されません。相手のプライバシーを尊重すべきです。しかし私達が無条件の愛を現す時には、私たちは全ての人を抱きしめますが、これはとても大きなことです。なぜなら愛、アガピはとてもパワフルであり、それは実際、生それ自体なのです。主キリストは創造界におけるあらゆる人間の重荷を背負っていますが、あなた方各人もまた「多くの」同胞の人間の重荷を少なからず背負うことができるのです。実際、主キリストは全体、つまり大きな十字架を背負っていますが、あなた方各人も非常に小さな十字架を背負うことができるのです。同胞の人間たちの無数の小さな十字架を。

質問：あなたはあるレベルにおける観察を通じた同調について話しましたが、それが全く理解できません…。

答え：観察を通じた同調です。私たちが何かにフォーカスする時、何かを観察する時、私達がそのレベルの気づきに上昇し、高まると、五つの超感覚を使いません。それらの五つの超感覚の特質の一つは同調です。何かに同調する時はその対象に意識を投射し、その対象のポジションから何かを観察します。今、私たちには投射する能力があります、なぜなら同調は意識を投射することで可能となるからです。私たちは一つの観察対象のみならず、沢山の観察対象に同調することができます。混乱することなしに、沢山の対象を観察することができるのです。私達は自分の意識を同時に距離に関係なく多くの対象物に、多くの場所に投射することができます。一度に多くの場所から聞くことができ、多くの場所から見ることができます。それらは「生」の真の能力に比較したら「生」のほんの僅かな能力にすぎません。

Page6

質問：シンボル、例えば円のようなシンボルなどを誰が最初に創造、あるいはデザインしたのか、どのようにして現れたのかを知りたいのですが…。

答え：中宇宙的にこの地球上では…というのも、神の黙想には初めも終わりもないことを考えれば、時間的な年代の制限はありえないからです。しかし、地球上で人間がそれらのリアリティーに気づき始めた時、それらのリアリティーは人類を活性化するスパークの中にあって、あらゆる人間の中にあるものです。それ故に、誰かが他の誰以上である、とは決して言いません。私たちは全員が等しく、全員が同じなのです。私たちが他の誰かよりもほんの少し早くスタートしたかどうか、はそれほど重要なことではありません。

しかし、人がそれらのリアリティーからガイダンスを受ける用意ができた時に、内側から流出としてそれらのリアリティーを表現し始めたのです。勿論、ガイダンスは常に内側から生じたのであり、今晩も私たちはそのことを説明しました。もし内側からの生のスパークがなければ、現在のパーソナリティーが進化・成長することは不可能だったでしょう。そして進化するのみならず、存在することさえ不可能です。ですから、何であれ恩恵をもたらすものは適切なタイミングでやってきます。それゆえに、人類の気づきの全体的レベルがそれを許容したときに初めて、イエス・キリストロゴスとしてキリスト・ロゴスが誕生し、ガイダンスがもたらされたのです。

キリストはあらゆる真摯な信念を脇に追いやるために来たのではなく、ただそれらを完全なものとするために来たのです。それだけです。それゆえにキリストは当時の真摯な信念によって受け入れられたのです。彼らはキリストが来ることを知っており、その到来について話していました。過去の真摯な神秘家たちはロゴスを歓迎するために代表者を送ったのです。

（＊キリスト誕生の時に）やってきて贈り物を捧げた東方の三博士は象徴的に様々な神秘学派の代表だったのです。ペルシャの神秘学派、インドの神秘学派、およびそれらの地域のいろいろな学派が存在し、後になってキリストは12歳になるまでエジプトの寺院で育てられました。そして勿論、最後にはギリシャの神秘学派の代表、聖フィリップが彼を訪れ、またエレウシニア（＊古代ギリシャの町、エレウシスにあった）の神秘学派の学生も訪れました。しかし、たとえ現在のパーソナリティーとしてのイエス・キリスであれ、彼を自己実現に到達した他の人間と比較することはできません。比較は不可能です、なぜならキリストはたとえ現在のパーソナリティーとしても全体を示しているからです。実際、彼は私たち全体であり、彼が話すとき彼は人類、私たちについて述べていたのです。彼が天なる父に嘆願したとき、彼は私たちのために嘆願したのです。彼自身ではなく、私たちの罪を許してくれるように嘆願したのです。

理解するのは非常に困難かもしれませんが、しかしそれが事実なのです。いいですか、彼の誕生、そしてこの地球上で私たちが経験した活動全体。それを他の惑星では私達より以前に経験しているのです。そして私たちが話しているこの瞬間でも、（＊どこかの星では）

イエス・キリストロゴスが誕生し、彼の年齢の様々な段階を経験しています。なぜなら、それは私たちの小さな惑星だけの出来事ではなく、宇宙、他の星でも生じることだからです。

質問：罪とは何でしょうか？

答え：罪、それは何であれ創造の不動の法則に反することです。

質問：この地球における実存の諸世界と最初の磔の間には意識の様々な領域があります。誰もが一緒にスタートしたのに何故そうなのでしょうか？

答え：人々は同時に来たわけではありません。私たちはサイコノエティカル界においてスタートします。初め、私たちは誰でもパラダイスであるサイコノエティカル界にいます。しかし、物質界への降下の時期は様々です。

質問：あなたは前に、モナド・セルフ・スピリットは全体(whole)である、といいました。全体とは何ですか？

答え：スピリット・モナド・セルフの全体です。それはモナド・スピリット・セルフの全体です。一つである絶対存在がある、と述べる時、絶対存在のワンネスとはなんだと思いますか？それはセルフ、制限ある何か、例えば個人としての現れの制限として理解するようなものでしょうか？

そうです、スピリット・セルフはあらゆる複数性（多様性）を抱くことができ、意味します。全体の多様性・複数性がモナドのなかに抱かれ、そこにあることができます。そして同時にモナドは多様性それ自体の中の、多様性を構成するモナド・セルフの中の小さなスパークとしてあることができます。人間の脳がこのことを把握し、理解するのはとても困難なことですが、しかし実際そうなのです。

EREVNA SPA48/KE/02